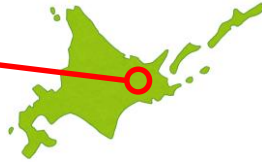


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(28~29年度:計画作成主体:津別町地域農業再生協議会)(北海道)

取組の概要

対象品目 : 加工馬鈴薯(産地面積:270ha)
 主な取組主体: 津別町農業協同組合
 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 基準(H27年度) 117,798円/10a
 目標(R1年度) 144,509円/10a
 導入施設等 : 整備事業(集出荷貯蔵施設)
 生産支援事業(機械リース(トラクター1台、播種機1台、収穫機1台、コンテナ運搬機2台、コンテナ7基))

北海道
津別町
津別地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

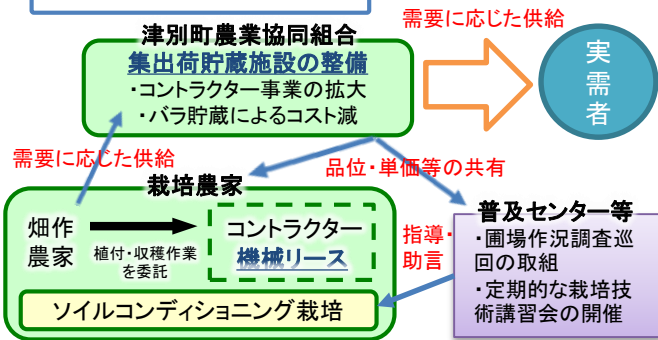
適正な輪作体系を確立していくために重要な加工馬鈴薯は、実需者から更なる出荷量の拡大及び規格内比率の向上が求められている。これまで生産力強化の取り組みとして、ソイルコンディショニング栽培及び高性能ハーベスターの導入を推進してきたが、これらの取り組みは多大な投資費用を要することが大きな課題であった。課題解決のため、JAが高性能作業機械をリース導入し、コントラクター事業により植付・収穫作業を担うことで、費用と労働時間の削減を図る。

また、近年作付面積が拡大傾向であるとともに、削減した労働時間を活用し、今後も拡大化を図ることから、現在の集出荷貯蔵施設の貯蔵容量では不足する見込みのため、施設整備も併せて実施し、実需者への安定供給を図る。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ① 植付・収穫作業をコントラクター事業で行うためのトラクター、播種機、収穫機をリース導入
- ② 施設整備にあたり、従来の鉄コンテナ容器を使用するよりもローコストで労働時間が少ないバラ貯蔵システムを確立するため、大型コンテナ、専用運搬機をリース導入
- ③ 増反に伴い、貯蔵容量が不足するため、新たに集出荷貯蔵施設を整備

産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・加工馬鈴薯専用大型コンテナ及び専用運搬機を利用する集荷・運搬・貯蔵体系(バラ貯蔵システム)の確立
- ・「津別町スマート農業研究会」と連携して大規模馬鈴薯生産の次世代営農スタイルを構築

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ① JAが主体となり、機械をリース導入することで生産者の投資費用が軽減
- ② コントラクター事業により労働時間が削減
- ③ バラ貯蔵システム確立により、輸送費用及び労働時間が削減し、処理能力が拡大

【事業実施による間接効果】

- ① 1戸当たりの作付面積が拡大し、生産量が増加
- ② ソイルコンディショニング栽培の普及拡大により、生産量が増加



コンテナ貯蔵



バラ貯蔵

販売額31.1%増加
(達成率137%)

